

### 3 児童会・生徒会を通じた予防的取組

#### (1) 児童会・生徒会交流集会について

これまでのいじめの校内研修やアンケート調査の実施により、教職員のいじめに対する認知力の向上や早期発見・早期対応につなげてきました。しかしながら、いじめを生じさせない学校づくりという開発的・予防的な視点での取組が弱く、子ども自身による主体的な取組や、保護者や地域を巻き込んだ取組を強化する必要がありました。

そこで、子どもの、子どもによる、子どものためのサミットを開催することで、子どもの自主的ないじめ防止等の取組を促進するとともに、学校・家庭・地域がより一層連携を深めることで、「いじめは絶対に許されない」という県民意識の高揚につなげていきたいと考えました。

そして、県内の小・中・高等学校から実行委員を募り、全ての学校の児童会・生徒会代表の参加による「いじめ防止子どもサミット」を平成26年に開催し、以降6年間、学校や市町村、ブロック別、全県におけるいじめをなくす取組を実施してきました。

#### (2) 児童会・生徒会が主体となったこれまでの取組

- H26 「いじめ防止子どもサミット」
- H27 「『ネット問題』を子どもと大人で考える県民フォーラム」
- H28 「児童会・生徒会交流集会」（5ブロックで開催）
- H29 「『高知家』児童会・生徒会サミット」（※悪天候のため中止。取組のDVD等を配付）
- H30 「児童会・生徒会交流集会」（各学校・市町村単位で開催）
- R1 「『高知家』児童会・生徒会地区別交流集会」（5ブロックで開催）

#### (3) 成果

- 児童会・生徒会交流集会の開催を重ねるごとに参加した児童会・生徒会代表や実行委員会の子どものリーダーとしての意識が高まってきました。
- 各校の取組の実践交流や協議から、どの学校においても学校の実態に応じて、子どもが主体となった積極的な取組が行われるようになりました。
- 各市町村単位での交流集会においては、近隣の学校や中学校区の取組の実践交流であるため、自校の取組の成果を発表したり他校の取組を参考にしようと意見交換を行ったりして、子どもの意欲的な姿が見られました。

#### (4) 今後の方向性

6年間の学校や市町村、ブロック別、全県におけるサミットや交流集会の取組で、子どもが主体となったいじめ防止等の取組が定着したと考えています。

今後は、市町村・中学校区・学校（高等学校を含む）単位で子どもが主体となったいじめ防止等に向けた取組を継続して実施し、さらなるいじめ防止等に向けた取組を進めていきましょう。

(5) 「高知家」児童・生徒会援隊（実行委員会）より

① 「高知家」児童・生徒会援隊からメッセージ

高知県では、サミットや交流集会等を行い、いじめ問題を解決するために大切にしたいことを話し合ってきました。それをまとめたものが、『「高知家」やさしさいっぱい子ども宣言』です。

児童・生徒会援隊でいじめ問題について話し合いをする中で、いじめは、住んでいる地域や学校のちがいに問わず、いつでも、どこでも、だれにでも、起こることがあるということが分かりました。

また、いじめについて、一人一人の考えを知ることが大切であり、特に、被害者の気持ちになって考えることが大切であるということや、いじめを起こさせないためには、加害者と被害者の関係だけでなく、周りにいる全ての人の関わりも大切だということが分かりました。

私たちは、いじめ問題の解決のためには、児童会・生徒会が中心となって、① 実態を調べて、知らせ、② 話し合い、③ いじめ問題を起こさせないための活動を決めて、みんなで取り組み、④ その取組が有効であったのか検証し、改善することが必要だと考えています。

「いじめ」でつらい思いをする人がいなくなるよう、全ての学校や学級で取組を続け、いじめ問題を起こさせない「高知家」にしていましょう。



「高知家」やさしさいっぱい子ども宣言ポスター

②学校での取組の流れ（児童会・生徒会の取組例）

いじめを許さない学校・学級づくりに向けて

① 実態を調べて、知らせる

いじめ問題についてアンケート調査を行い、結果を全校に知らせる

② 話し合う

各学級や学年、児童会・生徒会で取り組むことの方案を考える

③ 取組を決めて実行する

提案をもとに、取り組むことを全校で決定し実行する

④ 点検・評価・改善

取り組んでよかったことを評価し合う。また、取組が有効であったのか話し合い、よりよい取組に改善する

③学校での取組の具体例

「高知家」やさしさいっぱい子ども宣言の4つのキーワード  
「知ろう」「認めよう」「かかわろう つながろう」「話し合おう いかそう」

4つのキーワードをもとに、取り組めることを下に例示しました。学校で今、取り組むべきキーワードが見つかったら、そのキーワードに書かれている取組を実践してみましょう。

### ①「知ろう」

- ・一日に同じ人とばかり話すのではなく、たくさんの人と会話をして、お互いのことをより深く理解し合う。
- ・アンケート調査を行い、結果を全校に知らせる。
- ・相談ボックスをつくり、みんなが困っていることや考えていることを知る。
- ・いじめ防止啓発リーフレット（H27～29 配付）やサミットDVD（H29 配付）を活用し、いじめとは何かについての知識をつける。

いじめの実態

### ②「認めよう」

- ・「いいところ見つけ」や「ありがとうカード」の取組で、仲間の良さを見つけ、お互いに認め合う。
- ・「ありがとうの木」等の掲示物を作成し、みんながよく見るところに掲示する。
- ・クラスの帰りの会で「がんばっている人」または「今日のありがとう」を発表する。
- ・校内放送でがんばっている人を紹介する。

### ③「かかわろう つながろう」

- ・一部ではなく、みんなが楽しめる全校レクリエーションを企画し行い、よりよい人間関係づくりを行う。
- ・児童会や生徒会が中心となって学校行事を充実させる。（みんなが活躍できる場を設ける）
- ・学習活動や学校生活で、対話的・協働的な場面をつくる。

### ④「話し合おう いかそう」

- ・各学級で話し合い、いじめ問題について一人一人の考えを知り、解決方法について考える。
- ・アンケート結果について、学級、学年、学校で共有し、対策を話し合い、取組を決めて行動する。
- ・全校集会等で、いじめについてのロールプレイや寸劇等を行い、各学級で様々な立場（被害者・加害者・傍観者・仲裁者）の人の気持ちについて話し合う。

#### ④市町村の取組例

- ・市町村（近隣の市町村）や中学校区単位で、各学校（高等学校を含む）の児童会・生徒会の代表が集まり、いじめ問題をテーマに各校の取組の実践交流や意見交換を行う場を設定する。
- ・「いじめ予防等プログラム」や『高知家』やさしさいっぱい子ども宣言」を活用し、各学校のいじめ防止の取組を支援する。
- ・『高知家』やさしさいっぱい子ども宣言」をもとにした各学校の取組を支援する。
- ・学校の取組を発展させるとともに、地域住民へ発信して関心をもってもらう等、いじめの防止や解決に向けた取組を継続して行う。